



支部だより No.150

日本山岳会京都・滋賀支部

2023年3月15日

ご挨拶

新年度を前に

松下征文

2022年度もコロナに翻弄されましたが、会員の皆様の努力とご協力により、大きな事故もなく実りある山行が出来たことに感謝します。

しかし、コロナ禍の中、会員の感染者も増えました。計画の変更中止等や山小屋での発症等で山小屋の営業中止等もありました。規制は緩和されましたが、1月末現在第8波のピークが過ぎようとしています、まだまだ油断できません。各自で感染予防対策を続けましょう。

昨年2月におきたロシアによるウクライナ侵攻はますます激しくなり、先が見えない状況です。我々の生活にも悪影響が拡がってきました。一日も早い戦争終結と平和を願いたいものです。

明るい話題としては、皆様の努力により、京都・滋賀支部に多くの新会員を迎えることが出来ました。若い新会員の方は先輩会員に登山を学び、自ら計画実行できる会員となっていたきたい。経験豊かな新会員の方には支部山行を盛り上げていただくよう期待します。

もう一件、京都・滋賀支部と交流がある、新宮山彦ぐるーぶの秩父宮記念山岳賞受賞です。

当初より、新宮山彦ぐるーぶの一員となって活動を続けている京都・滋賀支部の、関本俊雄会員が推薦文を書いて申請しました。12月3日の晩餐会表彰式では、新宮山彦ぐるーぶと喜びを分かち合いました。

2年後には、JAC120周年記念の山岳古道120選が公開される予定です。京都・滋賀支部でも、多くの山岳古道がある中から9本の山岳古道を選び、村上正古道担当の熱意のもとに踏査してきました。百名山ブームが下火となってきた現在、山岳古道ブームに火が付くでしょう。古道は地元の山々です。古道調査山行では、地元の山こそ難しい山と感じました。

山岳古道他の支部活動も活発になってきました。これからも各例会に一人でも多くの方に参加していただ

きたい。新たな発想と目線で面白い企画山行等のご提案をお待ちしています。

この支部だよりの発行される頃には、小和田篤会員が、カナダ北極圏のバフィン島の氷上900kmを単独でソリを引いて踏破しているでしょう。小和田会員の旅の安全と、北極圏踏破を応援しましょう。

最後にお願いです。友の会の皆さんには、一日も早く日本山岳会の会員となつていただき、支部活動にも積極的に参加して、日本山岳会のクラブライフを楽しんでいただきたいと願っています。

新年度も新たな気持ちで登山計画を立て、危険を避けて困難な登山が出来るように歩いていきましょう。会員の皆様のさらなるご支援ご協力をお願いいたします。

活動報告

山歩会例会

古城山 (標高 282.81m)

豊臣秀吉ゆかりの城跡、街道を歩く

竹下節子

期待していた紅葉はまだのようだ。今日も晴れて暖かく山々が彩るまで時間がかかりそうだ。歩くには良い日になった。

目指す山は鈴鹿山脈西側(滋賀県甲賀市域内)水口丘陵(標高200m~230m)にある古城山(こじょうざん)だ。北は日野川、南は野洲川に挟まれ侵食されずに残った山だ。昔は大岡山(おおおかやま)と呼ばれ多くの歴史を持っている

JR 貴生川駅改札口午前10時に集合。中川さんの合図で参加者11名が顔合せをした。皆さん顔馴染みの先輩方だ。道中会話が弾みそうだ。10時6分出発。駅より直線距離で約3km先の古城山に向かう。登山口は歩いて約3.7km地点にある。最初は東に進み国道307を左折する。やや急な坂道を1.7km行くと左に水口スポーツの森がある。そのまま進んで水口大橋を渡る。橋の上から古城山が思いのほか大きく見えて驚い

た。橋の下は野洲川だ。皆さんは川を覗き魚影を探して楽しんでいる。私は何度も渡ったが川面に魚を探したのは初めてだった。橋を渡って東に向きを変えて野洲川沿い（国道307）を歩く。古城山は近くなり東側は野洲川を挟んで長閑な山川風景が広がった。奥には近江の山々も連なっている。水口橋を過ぎると立派な木が見える。高塚のムクノキと案内版にあった。ひと際高く誇らしげに枝を広げている。水口町の古木、名木と記されていた。単調な車道歩きに由緒あるムクノキが迎えてくれて嬉しくなった。名木を鑑賞してカメラに収めて休憩をとった。再び歩き始めると「東海道五十三次水口宿」と錆びた文字の一對の門構えが出て来た。この付近は昔栄えた水口の宿場町だったと聞いている。その名残の門なのか？ 向かい側には大岡寺（だいこうじ）の道標が立っている。矢印どおりに左へ進むと大岡寺に突き当たる。手前には旧東海道が通っていて東海道五十三次50番目の水口宿がある。下山後はその古い町並みを通って帰ろう。

11時10分 大岡寺にお参りをして仏殿へ通してもらった。ご本尊の千手観音立像や阿弥陀如来像など貴重な重要文化財を見せて頂いた。合わせて大岡寺の歴史を拝聴した。昔の大岡寺(686年建立)は古城山の頂上にあっただらしい。1574年に寺は焼失し、そこに秀吉が家臣に命じて水口岡山城を築城(1585年)させたのだ。現在の大岡寺は焼け残った部分を移転させられたと教えてもらう。大岡寺を知らずして古城山は語れないと思った。

西へ約5分、登山口に着く。紫の忍者が寄り添う案内板を読み、透かしたり眺めたり謎解きをしたり足の止めを食う。「忍法足止めの術か？」しかし頂上は約20分で登れてしまう。皆さんには物足りないと思うが近江随一の水口岡山城(伝)18mが聳えていた当時を想像して歩いて下さると幸いだ。

11時40分 少し歩いて右の登山道に乗る。石の観音様に癒され桜の小径、丸太の階段を登る。アニメの武将やお姫様の案内板に導かれる。曲輪跡、本丸跡、二の丸、三の丸、天守台跡や石垣跡などを判りやすく案内してくれる。途中、体育の授業か？ 山麓を駆ける学生達に出会った。「若いね、元気やね」と口々に言いながら羨望の目を向けた。そのとき先輩方は多分、自分達の元気さには気づいていなかったようだ。

12時 古城山頂上(本丸跡)に着いた。東西に広い頂上は天守台跡や大岡寺奥の院、三角点(四等、点名：古城山)を抱いている。周囲360°の見晴らしだ。秀吉はこの有利な地形に要害の城を築かせたのだ。雪か雲なのか遠い青空の下に伊吹山がうっすらと見えている。皆さんは城跡の石垣を見に行ったり城郭の案内図を見たり各々の目線で歴史を散策されていた。そして伊吹山に見えるベンチでのんびりランチを頂いた。



古城山頂上にて

13時 いつものように集合写真を撮り下山。帰りは三角点の東を回り込み二の丸跡から穂徳稲荷神社を通って降りることにした。城跡の周囲は敵の侵入を阻む虎口があるのだが気づけなかった。13時17分 登山口に到着。

帰路は寄り道をして帰る。最初に水口宿の古い街並みを散策する。昔は「街道一の人止場」と言われ大勢の人で賑わった。武将では豊臣秀吉や徳川家康、織田信長達が時を違えて立ち寄っている。街道沿いは問屋場跡、高札場、本陣跡と歴史を物語る古い建物や道標が要所に復元されていた。ここは日を変えてまた訪れたい。

次は盆天山を経由して貴生川駅へ帰る。水口大橋を渡るまで今朝通った道だ。今度は橋を渡って左の水口子供の森に行く。ゲートから南端へ通り抜け盆天山の道に出る。そしてルート探し。ピーク手前の土手は登れなかった！池上さんが先回りしてピーク下の笹藪にルートを見つけた。少々藪こきをして盆天山頂上に到着。15時5分 盆天山、標高245.78m(三等、点名：虫生野(ムショノ))の三角点にタッチした。15時30分 貴生川駅まで約1.7km無事帰着した。

今回は私のホームグラウンドをご紹介します。古城山だけでは失礼だと思いオマケつきにした。山の麓まで電車で行けるが歩いた。結果約10.6km歩いたが楽しめたと思う？ 子どもの森の自然道は想定外の高低差だったが充実した。それから大岡寺を守る富永さんには以前「仲間と来ます」と伝えていたのが嘘にならずに済んだ。

インターバルを含め約5時間30分と約10.6kmに今後の勇気をもらった。

皆さまありがとうございました。

実施日：2022年10月25日(火)

参加者：竹下節子(L)、中川 寛、西田 均、
遠藤将一、上田典子、山口基継、能田直子、
(友の会)池上清司、京極明美、橋本裕子、
川寄紀久子

桑谷山

上田典子

秋がふかまって、安定した天気が続いている。きょうも晴天だが、集合地の大悲山口は、市内より冷たい風が吹いている。下山地長戸谷林道入り口への車移動後、全員なじみの顔が揃って、出発する。大悲山峰定寺に向かう寺戸川沿いの車道を10分ほど歩くと、ぽつんと一軒家がある三叉路を左に取り、コンクリートの橋を渡り、桑谷林道に入る。10分程で、P622mへの尾根の取り付け点に着いて、一休みして、身支度をする。昭文社の古いマップにある登山口は、林道をさらに登って行くようだが、我々は、鉄塔を目指して登る。右手から沢が入っている。いきなりの不整地の急斜面の激登りで、日頃のトレーニング不足のなまった身には厳しい状況である。先頭に行くリーダーのあとを必死でついて行こうとするが、同じトレースを取れず、両手、両足を最大限駆使してよじ登った。やっと尾根に乗ると、フカフカの落ち葉の積もった樹林帯となって、これぞ北山の妙だと嬉しくなる。少し歩きやすくなって、2本の関電の送電線の間位置するP622mに着く。北方、送電線の先に桑谷山が、西北西方面には品谷山、西方に鍋谷山、南東に大悲山と、北山の大展望をサブリーダーから教えてもらう。今までの樹林帯から抜け出た明るい台地で大休止する。お天気は上々。P622mの標識は見つからなかったが、GPSで確認。次の目標のP813mへ向かう。このあたりから時折巨木が出現するが、激登りは続き、観賞する余裕もなくひたすら足元をみながら登る登る！ やっと、好展望の第4鉄塔P813m到着である。西方の鍋谷山の背後には、愛宕山、地藏山がうっすらと望め、ここでも北山の山並を堪能した。なんと多くの峰や山があるのだろう！

最後の急登をこなして、桑谷山東峰西側の分岐ピーク（東峰）に到着した。吹く風を感じて一息入れて、西峰に向かって出発する。急登の連続の後は稜線散歩だろうと思っていたら、頂稜部は倒木が多く、歩きづらかった。それでも、手前少しの急登の先に、桑谷山西峰924.9m 三等三角点（点名：長戸）に無事に到着した。三角点は四隅が欠けていて、痛ましい姿だった。展望は無し。この西峰が桑谷の頭にあるということで、桑谷山頂と呼ばれているようだ。別名、経塚山とも言われているのは、大悲山峰定寺と縁の深い山ということが伺える。山頂でランチタイム、記念撮影のあと、リーダーから時間に余裕があるので、予定下山コースを変

更し、広河原能見の・479mに向け、西北西に延びる尾根を下ることを告げられる。地図を見ると、最後の下りが長戸谷への下りより楽そうだと思ったので、安心した。頂上付近の踏み跡も、下るにつれて怪しくなり、藪に突入する。この時期、そんなに深くなく、登路ほど傾斜も強くなって、落ち葉の感触と紅葉を楽しみ、巨木の鑑賞もしながらの下りとなった。P804mを経て、P720mの尾根分岐を右にとり、忠実に尾根芯を下る。リーダーのルートファインディングに導かれて、無事に能見川とコウンド谷との合流点・479mの少し南、広河原能見町集落のはずれ、墓地のある車道に下山した。晩秋の残り紅葉の集落の景色を楽しんで、車のデポ地点までのんびり歩いた

桑谷山は、関電の送電線鉄塔巡視路ができる前はやぶ山で、登る人も少ない北山のエアポケットのよう



桑谷山頂上にて



見事な巨木

な山で、今でもどちらかというと地味な山であろう。そのことが私には何にもまして、魅力を感じる山である。今回も、リーダー、サブリーダーはじめ、メンバーの皆様には大変お世話になり、感謝の一日でした。

(上田記)

コースタイム：大悲山口バス停（9：15 出発）～桑谷林道入口（9：25）～尾根取り付き（9：35）～第一鉄塔（10：05）～P622m（10：10～10：20）～大悲山分岐（10：35）～P813m 第四鉄塔（11：15）～桑谷山東峰（11：35～11：40）～桑谷山西峰Ⅲ長戸（12：05）ランチタイム（12：40）～P804m（13：15～13：25）～尾根分岐右へ（13：45～13：55）～車道（墓地）下山（14：30）～大悲山口解散（14：55）

(緒方記)

実施日：2022年11月12日（土）

参加者：田中昌二郎（L）、笠谷 茂（SL）、大槻雅弘、山崎 泉、上田典子、（友の会）緒方由子

北山探訪

フカンド山・コウンド山

今中三恵子

本年度スタートの「北山探訪」、初めて聞く山名にひかれて参加させていただきました。

坊村駐車場集合、7:30。車2台で久多峠へ移動する。1.5km程度西の下山予定地近くに1台をデポした。グループならこのようなことができる。久多峠は、2～3台駐車できるスペースがある。我々がこの日一番早かった。

久多峠、8：00－8：35。峠から西へ20m、登山道取り付きがあった。急な登りが歩き始めにきつかった。程なく小ピーク。車で移動中は山の斜面の紅葉を楽しんだ。登ってみると、すっかり落葉していた。登山路は落ち葉がクッションになり、足元に心地よい。見えない小岩や木の根に躓いたりすべったりした。巨木が現れ始めた。

フカンド山（三等三角点 853.3m、点名：奥ノ谷）、9：30。“深洞山”との記載もあった。好天に恵まれ、葉を落とした木々の根本にまで陽が射し、広い尾根はどこも明るい。気持ちがよかった。見通しもよく、振り返ると、南には桑谷山、また北東の先には、古道調査で

訪れた経ヶ岳が見えた。「この季節ならでは」、「この天候に依る」と一同笑顔だった。

P927m、11:00。城丹尾根（山城と丹波の国境）に乗った。古い石の道標がある。巨木は、大きな杉が一本立っているもの、雷に打たれたものなどあった。他の種を受け入れ、台座から上に下にいろいろな樹皮の木や根が見られたものに趣を感じた。

コウンド山（P951m）、11：50－12：30。風なく、眺めも日当たりもいい昼食地だった。

P856m、13：15。この先に藪漕ぎがあるかも、との声があったが、杞憂で済んだ。徐々に、あたりが落葉から黄葉、ときに紅葉に変わった。道というより踏み跡程度。ときに、テープがあり、先人が歩いたとわかる。急な下降が一部あったが、概ね穏やかな尾根を歩いた。

林道出会、14：20。デポした車で移動。山を下りてから林道を徒歩で移動となると疲れただろう。感謝です。

久多峠、14：35。解散。

リーダーはじめ、皆様の素晴らしいナビゲーションで見事に予定通りのコースを歩くことができました。地図を見る、そこから得るものと目の前の地形が一致してくる、そして判断する。また、俯瞰するように、



巨木立つ尾根を行く（P897m 手前）



コウンド山（P951m）にて

現在いるところと周りの山々を把握している。経験を重ねて、そのように歩きたいと思います。

実施日：2022年11月19日（土）

参加者：笠谷 茂（L）、田中昌二郎（SL）、
大倉寛治郎、今中三恵子、
（友の会）緒方由子

健幸登山教室 9

リトル比良座学と実技

池ノ内直樹

本来は、JR 近江高島駅から滝山経由で寒風峠まで、読図を教えて頂きながら山行を実践するはずでしたが、雨天の為レスキュー比良小屋にて座学となった。

この日、講師となってくださったのが、松下さん、村上さん、土井さんでした。

皆さん、凄い経験の持ち主だということは、話を聞く前から想像は出来ていたのだが、話を聞いて、本当なら赤ベコのようにうなずきたいのだが、周りの方の事もあり、そうはいかなかった。

最初に松下さんが読図の仕方、必要性、などを説明して下さり覚えが悪い私も解りやすく教えて下さいました。登山においての装備や服装について、丁寧な説明で私には深く突き動かすものがあり、この後行動に活しました。

次に土井さんが雪崩の事故例、メカニズム、体験談など内容の濃い時間だった。特に土井さんが雪崩事故の救助を行った体験談は怖さと知識の必要性、救助に参加する行動力を持ち合わせていなければいけないと思った。

小屋の外に出て、村上さんによるロープワークでブルージックの使い方を教えて頂き、懸垂下降のバックアップや渡渉時、両岸に結び強く張れ、安全に利用出来るということを学びました。軽快なトークにより楽しく体を動かせた。ロープワークも命にかかわることなので、緩急の効いた気持ちになった。

松下さんによるシートベルトの50mm幅のテープでの救助者への使用方法を学んだ。私も要救助者役でおんぶしてもらいましたが、なんの締め付けもなくいられ、救助者役の方も重くなく負荷が少ないということだった。

今回のこの健幸登山教室は私には、非常にためになり、体験となり、楽しかった一日であった。講師の松

下さん、村上さん、土井さんには水飲み鳥の置物のようにこうべをさげたいのですが、周りの方の事もあり、心の中で何度もさせてもらいました。

貴重なお時間ありがとうございました。

実施日：2022年11月20日（日）

参加者：松下征文（L）、村上 正、土井文雄、
池ノ内直樹、上殿弥生、上野陽子、井川雅喜
（友の会）宅間 仁、大窪公三、三田村智子

山歩会例会

剣尾山(784m)

川寄紀久子

今回は10年前山歩会で登った剣尾山に行く。

剣尾山は784m、北摂を代表する名峰の1つ。名の由来は飛鳥時代に山頂に月峯寺を開いた日羅上人が護摩を焚いていた時に、空から不動明王の降魔の剣が落ちてきたところからその名がついたとされている。

少し曇り空の中、JR長岡京駅西側ロータリーに参加者10名が集合し、2台の車で出発（8:30）。長岡京ICから高速にのると霧がたちこめ周りの視界が悪くなってきた。亀岡盆地一帯は秋からよく発生するようだ。亀岡ICで降り（8:50）、R372からR477に、ナビ通りに走ると山道に入っていく、峠を越えるとパッと霧が晴れ無事国道に出た。

能勢温泉の駐車場に駐車（9:30）。ここからは立ち入り禁止区域があるため大回りして登山口に向かう。石柱に「右是より行者道」、ここが剣尾山登山道入口（10:00）、少し手前にトイレあり。立て看板に、行者山は、巨岩を利用し奈良時代役行者が行場を開き、爪で自分の姿を岩に刻んだ「爪刻行者像」があると史跡の由来が記されている。

長い丸太の階段を登ると巨岩が現れ、道沿いの大きな岩に刻まれた「大日如来座像」に足を止める（10:24）。数分で本堂に着き、大きなミロク岩の下で小休憩。この裏から行場めぐり、胎内クグリ、アリノ戸渡、東西視岩など回れるようだ。

大岩の道を登り「東の覗」（10:43）に出る、そこから能勢の町が見渡せ素晴らしい眺めだ。山道に戻り進むと突如「行者山」469mの表示（10:46）。通り過ぎてしまいうる山頂。「風の峠」（11:00）を気持ちよく歩く。「おおさか環状自然歩道」の標識がある分岐の辺りから、三角点に向かう5名と登山道に行く5名に分かれ別行動



剣尾山頂上にて



行者山四等 684m

となる（11：15）。大倉さんを先頭に読図しながら道なき道を藪漕ぎし、倒木やイバラに阻まれながら、四等三角点（点名行者山）684mにたどり着く（11：30）。記念撮影し急ぎ鉄塔を越え、下り合流場所に向かう。

緩やかな道を上ると六地藏が現れる（12：06）。その少し上に月峯寺跡がある（12：10）、かつて堂坊が建てられていた平坦な区画に礎石、石垣、井戸、手前に炭焼き窯跡などが残る。

数分で目的地「剣尾山」784m到着（12：20）。露岩が並ぶ山頂は木々が茂り、昔ほど眺望がよくない。それぞれ昼食タイム、風で肌寒く上着を着る。山頂の四方に向いた看板に消えかかった字で若狭、るり溪、六甲、明石とある。曇り空で遠くは霞んではっきりしないが、愛宕山、比叡山だろうと目を凝らす。

同じ道を、赤や黄色の落ち葉をカサコソ踏み、紅葉を愛でながら下山する。駐車場（14：40）。2台の車で途中、「烟河」にてコーヒータイム、高速にてJR長岡京駅に戻る（16：35）。

山道の運転大変お疲れ様でした。

実地日：2022年11月22日（木）

参加者：中川 寛（L）、幣内規男（SL）、上田典子、

西田 均、大倉寛治郎、遠藤将一、山口基継、
（友の会）橋本裕子、京極明美、川壽紀久子

巨木探訪

養父方面

（自然保護部会 11月例会）

中川 寛

今月は養父方面の巨木を探訪する。山村リーダーのもと、毎月定期的に行われてきた巨木探訪シリーズも今回を持って終了する。来年からは年数度の不定期な探訪となる予定。

8時30分四条大宮に集合し、京都縦貫自動車道、デカンショ街道、舞鶴若狭自動車道、北近畿豊岡自動車道と一路養父市へと向かった。

最初の巨木は、養父市八鹿町今滝寺にある今滝寺のカゴの木、幹周4.5mで養父市指定天然記念物となっている。今滝寺は、中世但馬きっての豪族で山名四天王のひとりであった八木城主八木氏の菩提寺で、1069年建立とされる古刹だ。かつては観音堂（本堂）を中心にして九院三坊の寺院があったとされるが、現在の今滝寺は、辛うじて仁王門に往時の繁栄を偲ぶのみだった。細い舗装路を登っていくと、ヒトの気配の全くない山の中腹に古刹然とした仁王門がポツンと立っている。仁王門の木造金剛力士像は、1257年に制作されたもので、鎌倉時代中期の力強い力士像（兵庫県指定文



今滝寺のカゴノキ

化財)だ。お目当てのカゴの木は、仁王門からかなり離れた所に樹々に囲まれるように立っていた。それほど巨木ではないが、樹形はなかなか立派だ。カゴ(鹿子)の木の名前の由来となった樹皮の鹿の子模様がしっかりとわかり、見応えがあった。

続いては、妙見山(1139m)中腹にある日光院、そして標高800mにある名草神社を訪ねる。

八鹿町石原にある日光院は飛鳥時代創建と伝わる古刹で、妙見大菩薩を本尊とし、境内の由緒板によると、肥後国・八代妙見、下総国・相馬妙見と共に日本三妙見の一つとされている(一般には、大阪の能勢妙見が三妙見の一つとされている)。境内はそれほど広くはないが、きれいに手入れされており、本堂横にお目当ての大イチョウがある。幹周5.5m、樹高35m、樹齢600年とのことだがまだまだ樹勢盛んだ。他にも見事な根張りのケヤキがあった。幹周3.5m、樹高28m、樹齢600年。東屋やケヤキの根に陣取りランチタイムとした。

日光院は、妙見山全山を伽藍とする壮大な妙見信仰の一大霊場として栄えていたが、明治の廃仏毀釈で妙見信仰の弾圧が始まり、「寺号を廃して、不動産のみ名草神社とせよ」との布達があり、現在の地に移ったとのこと。

日光院を引き継いだ名草神社一帯は、妙見杉として知られるスギの巨木林で、神社境内に「妙見の大杉」と呼ばれた国の天然記念物指定の巨木(幹周11.1m、樹高48m、樹齢1500年)があったが、1991年の台風で根元から倒壊し、今は残骸を残すのみとなっている。



名草神社本殿脇のスギ

境内にある国の重要文化財・三重塔は、出雲大社本殿造営に際して神木妙見杉を部材に提供した御礼に出雲大社から譲られたものとのこと。本殿横の大スギをはじめ、樹齢300年を超す巨木が林立する様は見応えがあった。

帰り道、丹波篠山市の波々伯部(ほほかべ)神社の大杉、幹周6.7m、樹高45m(支部日より139号に写真掲載)を再訪して一路帰途についた。(写真撮影:能田成)

実施日:2022年11月25日(金)

参加者:山村孝夫(L)、上野陽子、岡田茂久、

柏木俊二、中川 寛、能田 成

近畿2府4県の低山一等三角点を登る山行第5回 奈良県神野山(618.4m)と箕輪 (四等三角点)

藤綱珠代

12月11日、京都駅八条口都ホテル前に朝8時半集合。さあ、出発というところで当日奈良市内でマラソン大会がある事が発覚。現地へのルートを変更し新名神・名阪から奈良へ入る。

10時25分奈良に入り、まず奈良県山添村に鎮座する「長寿岩」を見学する。カーブを曲がり車で上がって行くと、いきなり「それ」は現れた。巨大な岩。ドーンと堂々と空の下に鎮座されていた。古めかしい七五三縄が信仰の深さを物語っている。直径7m推定600t。赤道、子午線とおぼしき謎の十字ベルトがあるとの事。夏至と太陽の関係があると考えられているらしい。イースター島のモアイ像を連想したが、1億年前に地下深くマグマが固まった花崗岩である。皆各々、見上げたり触ったり勿論、写真に収める。待受にして百年生きてみようか? うっかり長生きしそうになったが、本日目的の山「神野山(こうのさん)」登山口へ向かう。

山頂まで40分の天の川コース看板からスタート。10時55分。岩ゴロゴロ、流れ落ちて来るかのような黒い群れ荒々しく、その風景の昔を想像する。それにしてもなんとまあロマンチックな名付け方だろう。所々に点在する大きな岩にもアンタレス、ベガなど星座の名が付けられロマンを感じる。登山道自体はその天の川沿いに木道が設置され歩きやすく小さな子供連れでも大丈夫。周囲には桜の木もあり春頃の景色も良さそうだ。天の川を彩る淡いピンク。

ゆるゆると歩を進めていくと、やがて木道はいつの間にもやら落ち葉積もる山道となる。小鳥の声に耳を澄ましながら歩を進めると、現れたのは天狗岩。星座からいきなり民話の世界へ。天狗の横顔に似た岩が、でん、と横たわって寝ていた。どの角度が天狗らしいか考えながら進んでいくと今度は「めえめえ牧場」との分岐。今度はメルヘンの世界へ行きそうになるが真面目に山頂へ。

11時30分山頂到着。電波塔、トイレ、立派な木造の展望台もあり、ちょっとした公園のようである。一等三角点で記念写真を撮り展望台に登ってみる。流石一等三角点の山だ。360度近畿の山々が見渡せるが、少々ガスっているのが残念であった。因みにこの山頂は星空観察の人気スポットらしい。ばっちり見えそうである。

山頂にある神野神社を参拝して神野寺参道を下り、寺で昼食を摂る。神野寺は「髪生山一心院」という真言宗の寺院で聖武天皇の時代天平12年、行基によって建立と伝えられている。又、清和上皇が巡礼された大和山城摂津3箇所、国内13箇寺の一つに数えられている名刹でもある。さらには、神野山は古代から信仰の山として崇められ山頂には王塚という古墳もあり東経に位置することから白鳥座のデネブを表していると考えられている。白鳥座は「天の川星」や「十字星」という和名もあるそうだ。山頂から見上げた夜空瞬く星々に人々は何を願っていたのだろうか。中々歴史深い場所であった。

昼食後、本日のもう一つのメイン「四等三角点 点名：箕輪（みのわ）」を目指して12時半出発。が、なかなか辿り着けない。皆で地図やアプリを見比べ、こっちあっちそっちをと繰り返す。途中、のどかな秋の残り景色で和んだり茶畑を突き抜けたり、笹藪を少し漕いだりして漸く目指す箕輪へ辿り着いた。

山沿いのアスファルト道路上、カーブミラー辺りの笹藪の中にありそうな気配。13時20分、道路脇の笹藪を覗いていると頭上から「あった！」の声が上がった。笹藪の小山を電波塔のフェンス横から入り、笹に覆われ埋もれた三角点と保護石を確認するやいなや、リーダーを始めメンバーが手際よく鎌を取り出し笹藪を刈り始める。宝物を見つけた子供のような楽しいワクワク感が伝染していく。

ようやくすっきりとした四等三角点だがよく見るとあれ？ 石に「四等」の文字が刻まれてない。大きな発見であった。累計71423点(令和4年4月1日現在)四等三角点が全国に設置されている。設置された方々を思えば何も言えまい。

今回も、ロマンあり笑いありの楽しい山行であった。だが地図読み、特に低山ならではの里山と道路の地図

の大切さも考えさせられた山行でもあった。

実地日：2022年12月11日（日）曇り時々晴れ 風あり

参加者：大槻雅弘（L）、中川 寛、大倉寛治郎、能田直子、幣内規男、岡田茂久、竹下節子、山崎 泉、仲井輝雄、（友の会）藤網珠代



神野山一等三角点にて



箕輪山四等三角点にて

武奈ヶ岳の日

上野陽子

坊村駐車場8時15分集合、曇り空、気温5℃。頂上辺りはかなりの低温予想で雨を覚悟しメンバー4人武奈ヶ岳に向け出発。

安曇川を渡った所で、後ろから来た4人のグループと挨拶を交わす。するとメンバーの知人と分かり、一緒に登ることになった。人数が倍になり一挙に賑やかになる。

四人は大津北署の山岳警備隊の方々でした。それぞれのリーダー先導で、山は二回目という若手の方と、武奈ヶ岳は初めての私と続きスタートした。武奈ヶ岳は植林地を抜けるまでが急と聞き体力温存を心がける。後ろのほうでは先輩方の談笑の声、さすが皆さん余裕だなあと感心しながら歩幅を小さくしながら黙々と歩く。

途中休憩を二回取ると自然林に入る。ここから若手の方が先頭になり、どんどん登るのに続いて歩く。休憩の時、先頭は追われるようでペースが難しいと前回の体験を話される。わかりにくい登山道が何箇所もあり、二人がルートファインディングして登る。先輩の後ろは安心してついて行きがちだが、気を付けて都度よく見て選ぶ。後ろから見ると違くと分かったり、後ろの先輩方は違う道を行った！ など、間違えやすいところを確認したり、状況をよく見るのが大切なことを学びながら歩く。中間地点のワサビ峠までは谷を歩いたり尾根を歩いたりして両方の経験をする。

積雪期の谷は雪崩が起こりやすく尾根を歩くことを教わる。全体が見渡せる広い斜面に来ると、それぞれが歩きやすい場所を探しまちまちに歩いた。

尾根に出ると日本海側からの突風で物凄い風だった。飛ばされそうな中を前屈みの姿勢で登った。樹林帯を抜けしばらく登ると御殿山に出た。明るくて周りの山々が見え武奈ヶ岳も見えた。風が強まり時折小雪が舞う中で行動食を摂りながら各々景色を楽しむ。さあと武奈ヶ岳に向かう。

いつしか風も止み樹林帯を抜けると雲が薄れてきて、再び頂上が見えた。武奈ヶ岳の右側に見えるのがコヤマノ岳と教わる。高木がなくなり腰くらいまでの木が広がり登山道の端にはうっすらと雪がついている。青空と360度の景色が広がった。

頂上到着、1214mの山頂標識にタッチして歓声を上げ思い思いに撮影。しかし風が強く、時折小雪が舞う。気温0℃、全員で集合写真を撮り、ワサビ峠手前の樹林帯を下り、風を避けて昼食となる。昼食は全員が温かい麺類スープだった。

暴風時はお湯を入れる時間などないが、余裕があれば暖かい飲み物で体を温めると聞いていた。全員温まれてよかった。

下りは若手の方先頭にして、警備隊のリーダーの方がすぐ後ろを歩く。若手のしんどそうなときはリーダーが的確な優しいアドバイスをされるのを聞きながら自分も足に負担の無いように歩く。

同じ道でも、登りと違って見える景色。往きに振り返りつつ登ったが、見覚えのない場所もあり、さらに目印になる物やポイントに気をつけたいと思った。

無事に下山しお疲れさまの挨拶、休憩の度に倒れこ

んでいた若手の方にまた登るか、と皆さんが訊くと、はい装備をきちんと揃えまた登る、と答えが返り、皆で明るく解散となった。

様々な方々と登り、楽しく勉強になった山行でした。ありがとうございました。

実施日：2022年12月14日（水）

参加者：松下征文（L）、土井文雄、上野陽子、
（友の会）中尾光利

忘年山行

小倉山

八木 透

当初は嵯峨鳥居本から六丁峠を経て小倉山に登り、嵐山公園へ下山する予定であったが、山行当日の午後からの降水確率が100%だったことで、雨が来る前に下山できるように、嵐山渡月橋から小倉山を往復して正午までに嵐山公園へ下りるというコースに変更した。朝9時にJR嵯峨嵐山駅に集合する。すでにどんよりとして、何時泣き出してもおかしくない空模様だ。渡月橋から桂川の左岸を詰めて足早に小倉山へ登り、正午には嵐山公園の東屋まで下りて来ることができた。すると、ジャストタイミングで雨が来た。しかし東屋にはしっかりとした屋根があり、すぐそばに水道もあるという抜群の環境だ。雨音を聞きながら、各自が持参した食材を分け合い、ワインや日本酒でしばし懇談の時間を楽しんだ。帰宅する頃には雨は本降りとなったが、参加者はそれぞれほろ酔い気分でJRや嵐電に乗り込み、帰路に着いた。雨の中の小宴会も、またオツなものだと再認識した忘年山行だった。

実施日：2022年12月17日（土）

参加者：田中昌二郎（L）、笠谷 茂（SL）、
八木 透、安東勝浩、上田典子

冬山入門と読図

笹原祐真

12月18日金勝アルプスで読図講習に参加させていただいた。当日は冬型の天気となり、登山口の駐車場について車の扉を開けた時、すごく寒さを感じた。

最初に今日の天気を天気図で確認した。天気図を見れば風向きが分かるという話をされていたが、自分にはまだ山岳気象の知識が無く分からずに悔しい思いをした。

その後、金勝アルプスの歴史を学んだ。考えられないが、昔は金勝アルプスは禿山だったという事を知り自然の成長力に驚いた。

いざ登山口に入り読図をしていくが、金勝アルプスは登山道が多く、起伏もなく非常に読図するのが難しかった。自分自身で定期的に読図山行をするが、今までで一番難易度が高いと感じた。読図において先を予想し、何があるかというのを把握する必要があるが自分には難しく何回も何回も地図を見てしまった。

金勝アルプスはこれで二回目だが他の低山と違い、個性的な岩場も多くて凄く楽しめた。中でも天狗岩は低山ではありえないような岩場となっていて見るたびに驚かされた。

天狗岩の頂上から比良山、伊吹山を見ると積雪しているのが見えて冬山の訪れを実感できて非常に綺麗だった。

今回の山行きでは地図読みに凄く苦労した。GPSが発達した現在でも万が一のバックアップや広範囲を見るには紙地図が便利である。地図読みは登山の基礎であり、どこの山に行くにも欠かせない。

地図読みが上手くなるには、回数だと思うので何度も何度も繰り返し練習して地図読みの技術をあげたいと思う。

実施日：2022年12月18日（日）

参加者：松下征文（L）、村上 正（SL）、笠谷 茂、池ノ内直樹、松下征悟、笹原祐真、上野陽子、上殿弥生、（友の会）宅間 仁

初詣で山行報告

眞名子榮一

1月8日（日）午前9時に日本山岳会京都・滋賀支部24名及び滋賀県山岳連盟やまっこ9名、計33名がJR 大津駅前に集合した。それぞれが新年の挨拶をしながら再会を喜んでいる。遠くは明石や大垣市からの参加も頂いた。参加者確認や行程説明並びに自己紹介が終わり、明治35年に完成した滋賀県下初の長等公園、標高180m程の樹林帯の長等公園遊歩道を登り、展望台へと進むとそこからは大津市内や琵琶湖が、又遠くに比良山系や琵琶湖大橋が遠望できた。公園を一周して1km程歩くと桜で有名な琵琶湖疎水があり、其の北隣りに初詣でに相応しい今年の干支うさぎが神として祀られている、重要文化財で「卯年生まれの守り神として知られる三尾神社」がある。平素は閑散としているこの神社も今年は大勢の参拝者で賑わっていた。うさぎは飛躍と多産である事から縁結びや安産や無病息災を祈願する人々が多い。参加者の中にも年男年女と発声し乍ら、うさぎの石像前で記念撮影する人もいた。境内にある灯笼や瓦等至る所に神の使いうさぎが描かれており、聖水もうさぎの口から出ていた。又令和5年の干支「卯」の仏様の文殊菩薩が特別公開されていた。次に隣接する三井の晩鐘や桃山時代を代表す建築で1200年以上の歴史ある、天台寺門宗の総本山観音堂（西国33所観音霊場の14番札所）や、国宝三井寺「長等山園城寺」参拝及び広大な境内を散策して北側に隣接する「大本山圓滿院」へ移動。この天台宗寺院は三井寺三門の一つで寛和3年（987年）創設。本尊は不動明王の門跡寺院で近畿36番不動尊第25番札所であり、寺内には本堂宿坊があり「大津絵美術館」が併設されていた。



圓滿院にて

この寺の食処「寺カフェ遊々亭」にて参加者全員で2時間に及ぶ湯豆腐会食で懇親会を実施して、一旦お開きにして大津絵美術館で楽しい古代の遊びを体験し乍ら、江戸時代のポップアート「大津絵」鑑賞を楽しんだ。

大津絵とは今から約340年前の江戸時代初期、東海道53次の大津宿場（現大谷町追分）で街道を行き交う旅人等に縁起物として神仙画を描き売ったものがその始まりとの事でした。お陰様で天候にも恵まれゆったりしたソフトコースと歴史散策と楽しい直会ができました。

実施日：2023年1月8日（日）

参加者：日本山岳会京都・滋賀支部24名及び滋賀県山岳連盟やまっこ9名、計33名

北山のマイナーピークを訪ねて

井戸山

八木 透

早朝に国道162号沿いの道の駅ウッデイ京北に集合。2台の車に分乗して小野内谷へ向かう。時折小雪が舞う天気だが、大きな崩れはなさそうだ。小野内谷の沢が二股に分かれる場所に駐車し、左側の沢に沿った林道に行く。井戸山への登山道は谷に沿ってあるにはあるのだが、非常に荒廃していて登山道の体をなしていない。八木が前年に下見に来た際は、道が荒れている上に茨が茂っていて歩きにくいこと甚だしかったので、今回はしばらく林道を進み、手ごろな尾根を探して取りつくことにする。比較的登りやすい尾根を順調に登ってゆくと、歩きやすそうな斜面に出た。このまま行けば苦労なしに稜線に出られると思った矢先、おびただしい倒木帯に往く手を阻まれる。加えて、標高が上がるにつれて雪が出てきた。このまま登るべきか、引き返すべきか。悩みどころではあったが、そのまま倒木帯を突破することにする。しかし思いのほか厳しい倒木帯だ。さらに雪と茨が邪魔をして思いのほか時間を要してしまった。悪戦苦闘の末、何とか倒木帯を抜けて稜線にたどり着くことができた。眼前に飯盛山や天童山の城丹国境尾根が迫る。しかし材木の伐採のための林道が縦横無尽に走って、登山道を寸断しているので、地形が読みにくい。ようやく登山道を見つけて登ってゆくと、やがて井戸山の三等三角点にたどり着いた。思いのほか時間を食ってしまい、到着は正午を回って

いた。

山頂で昼食を取り、雪が舞っていたので足早に帰路に着くことにする。さすがに往路の倒木帯を下山するのは困難極まりないと判断し、結局、古くからの道が通るジョウラク峠を経て下山することにする。ジョウラク峠までの道のりも、林道のせいでとてもわかりにくい。何とか峠に着くが、そこから下りが問題である。まともな道があるのか、ないのか・・・。笠谷さんに探索していただき、どうやら旧道と思しき登山道があることがわかり、谷筋を下ることにする。最後は遠回りを避けて急斜面を強引に下り、ようやく林道まで下ることができた。

倒木帯と茨のために思いのほか苦労した山行となったが、「北山のマイナーピークを訪ねて」というタイトルにふさわしい、まさに道なき道を通る北山らしい山旅だったと思う。全身泥だらけになりながらも、最後まで歩いていただいた参加者の皆さま・・・たいへんお疲れさまでした。

実施日：2023年1月10日（火）

参加者：八木 透（L）、笠谷 茂（SL）、田中昌二郎、安東勝浩、安東恵子、今中三恵子、（友の会）緒方由子、（入会予定）佐々木一成



井戸山倒木帯



井戸山頂上にて

支部新年会(2023年)

中川 寛

コロナ禍もやや収まりの気配を感じさせる中、今年の新年会が南禅寺順正で開催された。まだ、席を自由に動き会員相互の親睦を深めるビュッフェ方式や、大声を出すオークションは出来ないが、酒類禁止で盛り上がり欠けた昨年に比べ、今年はアルコールOKで、華やかな新年会となった。

会場は南禅寺順正。まず草々庵で受付を済ませた後、涼庭閣2階の座敷に移り、参加者39名がそれぞれ席についた。

森委員の司会で新年会が始まり、まず松下支部長からのご挨拶があった。続いて斎藤顧問の音頭で乾杯のあと、美しく盛り付けられた京料理を味わい、酒を酌み交わし宴を楽しんだ。席のあちこちで会話に花が咲き始め、くつろいだ雰囲気の中、新入会員の自己紹介が始まった。今年は若い会員の参加が多く、支部の新たな歴史が始まることを期待しながら8名の方の自己紹介を聞いた。

この日の昼のNHKの番組「吉田類の百低山」で愛宕山の放送があり、その中で愛宕研究会の副会長として大槻さんが出演されたとのことで、大槻さんから撮影の様子や放送を見た函館の皆子さん（今西錦司氏ご息女）から早速電話があったことなどが紹介された。

宴もたけなわとなり、久しぶりににぎやかな盛り上がりを見せた新年会を楽しむことができた。

最後に、笠谷副支部長から、今年も色々な支部例会が計画されており、活発な活動を展開したいとの挨拶があり、お開きとなった。

今年も色々とお気遣いいただいた上田会員にお礼申し上げます。

実施日：2023年1月18日（水）

参加者：39名



健幸登山教室 11

大比叡(848m)

松下征文

京阪坂本比叡山口駅前 8:30 集合、8名の参加者。

8:50 出発。登りは本坂、下山は無動寺道。

比叡山は京都滋賀の住人で知らない人はいないだろう。どこからも見える歴史的にも有名な山である。延暦寺というお寺は無い。比叡山全山が境内で比叡山延暦寺である。その中心的建物が根本中堂だ。多くの府県民は山頂まで登っていない。ケーブルやドライブウェイを利用して根本中堂までだ。そこから約一時間弱登ると山頂である。点名は大比叡で一等三角点である。現在は杉に囲まれてここからの眺望は楽しめない。

今回のルートは千日回峰行のルートでもある。ケーブル坂本駅より本坂の舗装道路を登って行く。舗装の終点より長い石段の道を登りきるとそこから山道である。1時間ほど登ると比叡山三大魔界の一つといわれる亀堂下を過ぎる。しばらく登ると再び舗装道路となり延暦寺会館前が出る。会館の擁壁面はオレンジ色のスミレモが覆っている。

無料休憩所で小休止する。ここより山頂に向かうが、自分の勘違いで予定ルートを間違えてしまった。間違えたルートから引き返して、ケーブル延暦寺駅手前のルートから山頂に向かう。

12:00 前に着き一等三角点前にて記念写真を撮る。山頂は日陰で寒々しいので少し下りた日当たりの良い場所で昼食とする。皆さんそれぞれよく考えた昼食である。自分も昨夜の残りめしでおにぎりを自分で握ってきた。自分で初めて作った握り飯だ。カップラーメンと食べる。

熱いコーヒーを飲んで下山開始。ケーブル延暦寺駅で仲間1名と合流して無動寺道を下りて行く。途中登ってくる光永大阿闍梨に会う。

このルートは自分が比叡山のルートの中で最も気に入っているルートである。初めての仲間も何かを感じる道だろう。早朝だとどこからともなく読経が聞こえてくる。毎朝登山道を掃き清めている若い修行僧もいる。

決して整備された安全なルートではないが、確かな登山道である。

読図にも適している。予定通り16:00前に下山できた。駅に向かう間も穴太積（あのうづみ）をしっかり学べたと思う。

実施日：2023年1月22日（日）

参加者：松下征文（L）、村上正（SL）、土井文雄（SL）、真名子栄一、上野陽子、上殿弥生、高杉博和、池ノ内直樹

山研で秋の上高地を満喫

田中昌二郎

長らく行きたいと思いながら、上高地は通過地点との思いが強くてなかなか訪問できなかった「山研」に泊まって、晩秋の上高地を徘徊した。

「島々」での乗り換え無しの直通バスで上高地帝国ホテル前下車。中学生時代、年長の従兄やその友人と槍ヶ岳に登った思い出の宿である。ビールとクラシックカレーのランチでも十分雰囲気を楽しめた。

田代橋を渡ってカラ松の紅葉を眺めながら梓川右岸を徘徊すると、明神岳最南峰とその下の平らな2263.8mの三角点ピークが目の前に現れた。対岸の六百山の岩峰が見事だった。ウエストーン碑にも初めて詣でた。歴史を感じさせる佇まいに感じ入った。

治山道路を分ける柵の狭い通路を抜けると、カラ松林の中にクラシックな「山研」が建っていた。管理人の山田和人さんに迎えられ、館内を案内された。山小屋風の蚕棚にシュラフかと思っていたが、畳敷の日本間で寝具も羽毛布団だったのには驚いた。旅館並だ。もちろんシート、布団敷きは自前だ。少人数用の洋間もあった。隅々まで掃除された階下の風呂に入れてもらって夕食の準備にかかる。

1階広間に隣接したキッチンには、冷蔵庫、電子レンジ、トースター、食器、調味料などがそろっている。持参のコンビニ料理を温めて、ワインで乾杯。希望しておいたご飯と味噌汁がすでに用意されていて大満足。羽毛布団で快眠。

翌日は岳沢小屋まで上がる。曇り空ながら西穂の稜線、釣り尾根を眺める。この稜線とは縁が薄く、地図を片手に眺めながらの見学登山となった。岳沢左岸の沢から明神岳主峰とⅡ峰の切り立ったコルをもう一度見たかったが、近づきすぎたのか見られず、残念だった。

雪崩のため倒壊し、場所を移して再建された岳沢小屋は、小屋仕舞の真最中だった。天狗岩を眺めて休息し、下山、明神池へ急ぐ。

嘉門治小屋の囲炉裏の火は赤々と燃えていた。たまたま同席した“いにしへのクライマー氏”の岩登り談義も面白かったし、定番の岩魚も熱燗が腹にしみて美味かった。明神池裏のワサビ沢から明神最南峰への懐かしのルートをもう一度眺めたかったが、夕暮れが迫っていてこれも果たせず、残念。

翌朝外はうっすらと雪化粧をしていた。美味しい味噌汁で朝食を済ませて、下山準備にかかる。敷布団、

羽根布団をたたんで、シート、枕カバーを廊下の指定場所に収める。余った食材の処理、缶ビン、燃えるもの、プラ系統など、判断に困ると山田氏が明快に助言してくれた。処理も順調に終わり気分が良かった。開設以来先輩たちによって、山と同じように規律あるヒュッテ生活が守られてきたからこそ、今の姿があるのだと納得して清算書に目を落とすと、3000円と思っていたのに平日料金1泊2000円となっている、有り難い！

清水屋旅館の湯が懐かしくて探していたが、経営も名前も変わって近代的なホテルになっていた。そのカフェで美味しいケーキを食べながら大きなガラス窓の外を見ると、釣り尾根が真っ白に化粧していた。大満足の懐かしの上高地、そして「山研」訪問だった。

実施日：2022年10月24日（月）～26日（水）



上高地山研にて

青森白神山地 暗門の滝 ビレッジより高倉森、津軽峠へ

藤網珠代

令和4年10月下旬、京都にも紅葉が始まりかけた頃、夕方仕事が終わるやいなやダッシュで家へ帰りザックを背負い新幹線で東京駅へ、そこで山仲間と落合い夜行バスにて盛岡に向かった。

どうした訳か盛岡駅前のレンタカー店では1台しか

空気がなく、しかも朝9時からしか開店しない。しかし好天に恵まれるのがこの日程のみならば仕方ない。駅の待合でお茶を濁す。

ようやくレンタカーを借り本命は明日だから岩木山スカイラインでもと思ったが風雪で通行止めだという。結局ゆっくりドライブをしすぎてしまい岩木神社前の宿に到着したのは夜だった。偶然だったがこの宿はあの田中陽希さんも泊まったそうだ。熱い目の湯が気持ちいい温泉宿である。ゆったりと湯に浸かり明日に備えて就寝。翌朝お山の約束、日の出前起床。寒い季節の朝は布団の誘惑、ぬるい誘惑に負けそうになる。撥ね退ける。

忘れ物無し。出発の前に岩木神社へ一礼。無事を祈る。周辺の田畑は霜をまとい白銀に輝いている。天気は良好。快適に白神方面へひた走る。が、白神大橋で止まる。なんと開通時間が8時になっている。HPには開通としか掲載されていなかった。現地情報の大切さを知る。ミスである。開くのを待って八時半ようやく登山口暗門の滝ビレッジ到着。しかし人影なく陽が降り注ぐのみである。案内所のトイレを借り出てくるとようやく係の人と出会う。用意が整ったので8時45分から登山始める。しかしいきなりの急登でアキレス腱と脛脛がごめんなさいと云う。湿った落ち葉はしっかり踏ん張らないとズルッと滑る。柔軟体操をしとけばよかったと心中でベソをかく。相方はさすが山男、平気な顔して先に行く。少し腹が立つが自分が悪いので我慢して歩く。熊鈴だけがわりんと鳴り響くなか、やっと道が楽になり周りの景色が見えてきた。黄金色の木々がキラキラと美しい。束の間また、登る。分岐に出くわす。分岐標識左には「菅江真澄古道」とある。菅江真澄とは江戸時代の紀行家である。暗門の滝へ抜けられるとの事。面白そうであるが次の楽しみとする。

分岐を右に進み順調に登山道を快適に歩く。話も快適である。と思いきや登山道のピンクリボンが途切れ倒木が道を塞いでいてロストする。相方は地図と磁石でルート確認、私は少し高い所からルート確認。あった。藪にかくされた登山道があった。案内板やリボンに頼りすぎない事だとしみじみ感じた。安心もここまで、ここから先が本当の正念場。まず現れたのはロープがぶら下がった急登の泥炭。汚れるのイヤーと思いながら登る。滑るのを堪える。登りきって周囲を見渡す。深い森の中にいる。ブナやナラの黄葉が癒やし。ぐいぐい進むと「えー絶対戻るのは無理。ピストンは無しや」私の声が響く。目前にあるのは急登胸突八丁かと思える急なヤセ尾根。左側は風雪に耐えてきた湾曲したブナの急斜面。右側は切れ落ちている。道幅は30cmから50cmもない。ロープは左に張ってはいるが心許無い。落ちたら死ぬな、誰とも出会ってないなあ、え

らいこっちゃ〜とスロースローで歩を進める。相方がロープを引っ張り過ぎるので「引っ張り過ぎや！頼りすぎ！」と怒鳴りながらおっかなびっくり行く。時折、木々の向こうに見え隠れする岩木山を視線の先に捉えながらもカメラを出す余裕は無い。ロープを手繰り寄せながら（これがホンマの心の拠り所や）などと思う。木の根が張り出しているのでつまづかないよう慎重に足を置く。不思議と怖さは失せ只々先の景色を楽しみに自分の足元だけを見ている。一步一步、歩くしかない。自己責任という看板が背中にある。ようやく抜けると右側の視界がパッと開け岩木山がたなびく雲と共に現れた。ああ、見れて良かった、あれ？谷筋にあるのは雪？行ってたら大変やったやろうか？ また今度、とニコリ。

しばし景色を堪能しカメラに収めつつ、津軽峠から下りのバスの時間が気になる。予定より痩せ尾根に時間がかかり乗りそこねると林道をたっぷり歩く事になる。ただ、季節は秋。秋はつるべ落とし、日没が気付きである。難所を通過したので急ぐことにした。ブナの黄色がキラキラと手招きする。ん？幽かに獣臭が漂ってる。でも怖くはない。生き物の気配は自然の証し。白神らしくていい。高倉森山頂829mに到着。ここからは緩い下りがほとんどなのでカメラも余裕である。それでも人気が無く積もり過ぎた落ち葉は滑りやすく最後まで気を抜けない。しばらく行くと登りのバスで津軽峠から入ってきた人と出会った。高倉森まで行き、またバスで戻るといふ。案内所の人に一人で暗門の滝への下りは危険なので止められたとの事。道を教えて別れる。マザーツリーの案内板が出てきた。ゴールはすぐそこ。その前にマザーツリーとよばれるブナに会いに行く。でも木は折れていた。一昨年の台風で小さくなってしまっていた。以前来た時は威風堂々と観光客を見下ろしていたのに。今は誰もいない。

あらためて津軽峠登山口にゴールする。12時半。バスが来るまで1時間ほどあるのでコーヒータム。ガスコンロで湯を沸かし林檎を剥きコーヒを淹れる。空は青く秋晴れである。相変わらず景色は貸し切りである。遠くに見えるは向白神岳、白神岳、天狗岳。

白神の核心部の山々が一望出来る。最初は辛くとも最後はやはり至福であった。

実施日：2022年10月24日（月）～26日（水）

鈴鹿山脈北部 霊仙山 (1,094m) 登山

仲井照雄

登山日：2022年11月6日（日）

午前7時20分 JR南彦根駅で事前に予約した乗合タクシー（近江タクシー）に乗り、霊仙山の登山口の手前の山女原（アケンバラ）に向かう。市内を抜け近江鉄道彦根・多賀大社線と並行して東へ向かう。新幹線を越えると、広大なブリジストン彦根工場が見えてきた。タクシーの運転手によると、約2,000人の従業員が働いているという。屋外プールや体育館があり、福利厚生施設の充実さに感心する。多賀神社を過ぎると、両側から山が迫ってきた。芹川に沿って、約40分で多賀町の山女原（アケンバラ）に到着する。漢字の山女原は当て字という。鹿や猿が出そうで20戸程の集落がひっそりとある。何軒かは空き家となっている。

午前8時50分 芹川沿いを歩き続け、今畑登山口（330m）に到着する。既にマイカーが約10台駐車している。滋賀県以外に岐阜県や福井県のナンバープレートの車がある。登山計画書を提出しスタートする。山蔭の谷間のせいか空気はひんやりしている。上空は晴天で気持ちが良い。今日の天気予報では、午前・午後とも降水確率は10パーセント以下で雨の心配はなさそうだ。今畑登山口から西南尾根を登る。ここは「花の百名山」として「フクジュソウ」が咲き、5月から6月頃が登山者で賑わうという。杉林を進むと次第にブナが目立ってきた。雨で土が流されるのか根が至る所で地面に露出している。根に躓かないように歩く。日光は枝葉に遮られ地面に届かない。道はよく踏まれている。しばらくすると、登山道は南方に大きく回る。GPSで現在位置を確認する。この辺りは標高約500mだ。所々大きな倒木が登山道を阻んでおり、腰を曲げて越える。南に曲がり切った所から、東方向になだらかな等高線を登る。やがて細い樹木が目立ちはじめ、直射日光が届くようになる。日を浴びると元気をもらうような気分になる。紅葉したもみじだろうか。季節が秋を感じさせてくれる。「クマ出没注意（多賀町）」の標識を過ぎる。引き続きなだらかな稜線を進む。高度が上がってきた。西方を見ると、霊仙山へ連なる汗フキ峠の稜線が見える。岐阜県側の東方は、行者谷を挟んで幾重にも低い山々だ。

午前10時 樹木の根があちこち露出しているわかりにくいところを抜け、笹峠（681m）に到着する。稜線上にしては平坦である。昔、この辺りで伐採された名

残という。そのためか木々が密生しておらず、日光が地面までよく届く。地中からタケノコのように突き出した露出した岩が目立つようになってきた。ただ日陰の岩は緑色の苔で覆われている。ここでしばらく休憩し、水分を摂る。GPSと地図で現在位置を確認する。10分程の休憩後、「左、今畑 右、山頂」の標識を通過する。鈴鹿山脈の深部にあるせいかあまり登山者に出くわすことはなく、鳥の囀りも聞こえない。

しばらく進むと、前方の山肌が見えてきた。白い石灰岩石柱だらけの景色に変わる。まさに緑色の植物世界から白色の岩稜世界に一変する。目測で横幅が約100m、長さ約300mの広さがあるか。土壌がほとんどなく、石灰岩が露出したこうした地域をカレンフェルトという。書物によると、鈴鹿山脈北部は石灰岩地質でゆったりした平頂部（霊仙山・藤原岳等）が多く、中部は花崗岩で鋭角の山容が特徴という。ごつごつした石灰岩だらけの岩肌だ。1年前に登った藤原岳の山頂部もこれほど白くないが、岩が露出していた。ここから急な白一色の斜面を近江展望まで登る。滑らないように気分を引き締める。以前から痛みがある左足首が大丈夫か心配になる。前方を見上げると、青空に白い岩稜帯がよく映えている。思わず、写真を撮る。西側斜面は樹林帯だが、一方、東側斜面は、むき出しの岩稜のカレンフェルトである。足元では、岩と岩の間の土は細かく滑りやすい。浮石もある。強風の際は避難する木々がなく、煽られて転倒しやすい。汗フキ峠の周回ルートで霊仙山から下ってきた何人かの登山者に出会う。斜面が急で1歩1歩慎重に下っている。所々岩にペンキで塗られた○印を頼りに登り続ける。

午前11時15分 近江展望（995m）に到着する。数人が留まれるような広さしかない。北方を見ると、ここまで登ってきた苦勞が吹き飛ぶほどゆったりと佇む霊仙山の稜線が雄大で美しい。また、今日は晴天に恵まれ、360度雲に遮られることなく遠方がよく見える。北東方向になだらかな霊仙山、琵琶湖を挟んで北西方向に平野部の高島市、南西方向に比良山系、東方に岐阜県大垣市の低い山々等、登山中は気付かなかったが、上から見下ろすと東側斜面は広範囲に紅葉している。平らな笹峠の紅葉や倒木も良く見える。あそこを歩い登ってきたのか。

ただ、冬の悪天候では、近江展望から霊仙山のなだらかな登山道でよく遭難事故があるという。ガスで目的地の霊仙山が見えず、GPSも使えないような状況は、非常に危険だと実感する。

写真撮影と水分補給のため20分程休憩する。左足首の痛みが良くならず、霊仙山まで往復するのは諦めるとする。

午後1時 近江展望からもと来た笹峠（681m）に下

る。浮石を踏まないように急な斜面を慎重に下る。不注意で前のめりに倒れると、地面から突き出た鋭角の石灰岩に顔をぶつける恐れがある。

午後2時10分 下山するにつれて気温が上がってきた。今畑登山口(330m)に無事到着する。

午後3時15分 出発点の山女原に戻る。

今回の山行では、何とんでもカレンフェルトを登ったこと、近江展望から霊仙山の稜線の雄大さは、麓では分からない。改めて写真で見ると、実際間近で目にする印象度の違いを実感した楽しい休日となった。

実施日：2022年11月6日(日)

図書紹介

黒部の山賊 (伊藤正一著)

宇都宮道人

薬師沢から岩のゴロゴロとしている急登を登り、雲ノ平に達したとき、空はどんよりとしていて、しばらくすると小雨も降ってきて、とても心動かされるような風景ではなかった。それでも、その台地に付けられた起伏のある木道を進み、前方に山荘を望んだとき、その場所にやってきたのだと思った。

雲ノ平は、日本最後の秘境とかメディアでよく紹介されているし、多くの登山者がめざすところでもあるから、あえて説明する必要はないかと思う。また、ここで紹介する本も、本屋さんの山岳図書のコーナーに行くと平積みにしてあったり、表紙の見えるかたちで陳列されているから、すでに読んだ、という方はとても多いと思う。それでも、まだ読んでいないという方に、役に立つとかの理由ではなく、ノンフィクションとしておもしろいからと、この本を勧めたい。

ヤマケイ文庫 2019年3月1日 初版第1刷発行
『定本 黒部の山賊 アルプスの怪』を読んだのだが、付記にあるように『黒部の山賊』は、1964年に刊行され、その後、1994年に新版が出ている。それも絶版になっていたが、2014年に定本として再構成されたとのことである。なぜ50年も前に書かれた本が復刻し、いま、またおもしろいと思うのは、山を歩いた経験があるものには、山の魅力に共感を覚えることが書かれているし、想像を超えたことも書かれているからではないか。

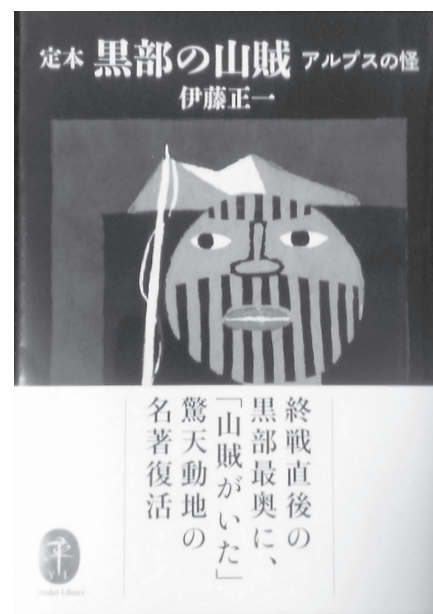
加えて、山賊たちと黒部の自然、生活、文化が生き生きと描かれているからだと思う。

終戦直後の黒部最奥にいた山賊というのは、クマやシカ、川魚を狩猟していた猟師たちである。著者の伊藤氏は雲ノ平を探検しようと、三俣蓮華小屋の権利を買う。山賊がいるという噂を聞き、初めは恐る恐る近付いていくが、やがて仲良くなり、山賊たちとともに暮らすようになる。当時の世相を背景に山賊たちの超人的な活躍、彼らの人間的な魅力がユーモラスに描かれる。

山賊たちの他に、バケモノの話が出てくる。山中でオーイと呼ばれても、行ってはいけない、それはバケモノが呼んでいるからである。また熊狩りの話、岩魚やカッパの話、さらに遭難事件に殺人事件、埋蔵金の話も出てきて盛りだくさんである。山小屋を再建し経営に苦勞する話、登山道を作る話も興味深い。むかし話として読むほど古くはないが、いまの時代とはあまりにも異なる様子が描かれている。

現在は、テレビ番組でも伝えられたように、伊藤氏のおふたりの息子さんたちが、雲ノ平山荘と三俣山荘をそれぞれ支えている。登山客が多く訪れなければ山小屋としての経営は成り立たないが、秘境としての魅力は薄れていくことになるのかも知れない。

雲ノ平山荘に一泊し、翌朝、祖父岳に登った。風があった。青天の下、雲ノ平が輝いて広がる。ちょうどヘリコプターが山荘に荷を下ろしている。向こうに薬師岳、振り返ると、これから向かう鷲羽岳がそびえる。左に水晶岳、右方向には黒部五郎岳も望める。少しの時間、そして、ふたたび、やってきたのだと思った。



日本山岳会京都・滋賀支部の皆様へ

図書担当 竹下節子

【原稿募集】◎「心に残る山の本」をご紹介します。

- ・書籍名 ・著者 ・表紙の写真（文章と別添）
 - ・発行年月日 ・頁数 ・発行所
 - ・紹介文（上限1500文字）
- 以上を添えて「支部便り」編集者までお寄せください。

○蔵書受け入れ 2020年4月より

	70周年記念	山岳原本	その他	合計
1回	46		99	145
2回		49	4	53
3回			46	46
4回			57	57
合計	46	49	206	301 (冊)

◎京都・滋賀支部より301冊の蔵書をお預かりしています。
※1回～3回はホームページに掲載中

京都・滋賀支部でお預かりしている蔵書は301冊になりました。「やま本を読み紹介する」の山書会です。

日本山岳会京都・滋賀支部が発行する「支部だより」や日本山岳会本部が発行する「山」にも多くの図書が紹介されて来ました。日本山岳会本部には13000冊が保有されているとか？羨ましい限りです。が、お蔭で多くのやま本を知り、読む機会が増えたのではないのでしょうか。山の仲間と行く支部企画の北山探訪、低山の一等三角点、山歩会の定例山行、120周年企画・古道調査等でもやま本の話になることがあります。知

らないやま本を教えてもらって好評ならば読んでみようと心が動きます。仲間との会話や情報は出会った事のないやま本を知るきっかけになります。山を愛し山書を愛する先覚者、先輩方と新しい仲間の図書紹介がそのきっかけになればと願っています。

以上、現状報告です。



支部だよりで紹介された本の一部

自己紹介欄

山書会 読まれた本 2020/4月～2023/1月

紹介誌/他 (※イ-ゾ)	蔵書NO (イ-ゾ)	書籍名	レンタル回数				
			1	2	3	4	5
	II-61	処女峰アツアツ 峠	○	○	○	○	
支部便り	II-28	たつた一人の山	○				
山	II-24	星と嵐	○	○	○		
山	II-16	モンブランからヒマラヤへ	○				
山	II-19	無償の征服者	○				
	II-10	我が愛する山々へ	○				
	II-50	若き日の山行	○				
	II-97	狼は帰らず	○	○	○		
	III-31	北アルプス大日岳の事故と遭難	○				
	II-91	ノンフィクション全集1 処女峰アツアツ 峠他	○				
	III-10	世界山岳名書全集9	○				
	I-32	尾瀬と鬼怒沼	○				
支部便り	個人所有	神々の山嶺上下	○	○			
同士推薦	個人所有	春を背負って	○				
同士推薦	個人所有	線路の記	○				
同士推薦	個人所有	ぶらっとヒマラヤ	○				
同士推薦	個人所有	黒部源流山小屋暮らし	○				
同士推薦	個人所有	鶴守と黒部源流	○				
同士推薦	個人所有	ミニアコンガ奇跡の生還	○				
同士推薦	個人所有	白きたおやかな峰	○				
支部便り	個人所有	単独行	○				
支部便り	個人所有	山に忘れたパイプ	○				

◎宮井秀樹 (No.17001)

新入会員の宮井です。縁あって駒井さんとの出会いがあり入会させていただきました。私が登山を始めたのは65歳なので、未だ10年足らずの経験ですが、これも縁あって微力ながら京都府山岳連盟の登山学校を担当しています。「教える事は学ぶこと」を実感しながら、山岳遭難を減らす一助になればと思い、活動しています。

令和5年3月には後期高齢者となり、何時まで登山ができるのか不安ではありますが、「山歩き」をライフワークとして健康管理と体力維持に努めていきたいと思えます。

日本山岳会京都・滋賀支部の山行にもできるだけ参加させていただいて、皆さんとの交流を深めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひ致します。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

日本山岳会京都・滋賀支部 2023 年度 (令和 5 年度) 第 38 回総会の案内

実施日：2023 年 4 月 1 日 (土)
場 所：鴨沂会館 新館ホール (203 号と 204 号)
 京都市上京区荒神口寺町東入ル荒神町
 電話：075-231-1001
 (市バス 3, 4, 17, 205 系統「荒神口」下車
 西へ徒歩 1 分。京阪「丸太町」下車西へ徒歩
 約 10 分。)

内 容

- ① 日本山岳会京都・滋賀支部第 38 回総会 (午後 2 時～
 午後 3 時 00 分)
 2022 年度事業報告、決算報告。2023 年度事業計画(案)、
 予算(案)。
 2023 年度支部役員(案)。「今西錦司賞」選考経過。
 その他。
- ② 記念講演 (午後 3 時 20 分～午後 4 時 30 分)
 講演 八木透氏 (佛教学大学教授)「京の河川と橋をめぐ
 ぐる歴史と伝承」
- ③ 懇親会 台所「てんや」(午後 5 時 30 分～7 時 30 分)
 懇親会費 4000 円
 京都市中京区河原町通り蛸薬師一筋上ル東入ル
 電話 075-212-8585
 (阪急京都線「河原町駅」北へ徒歩 5 分)

※総会出欠ハガキの投函 (63 円切手添付) およびメール等の速やかな連絡にご協力下さい。懇親会の人数などの予約の関係もありよろしくご協力をお願い申し上げます。

(問い合わせ等)
 日本山岳会京都・滋賀支部 事務局：伊原哲士

未知の山旅シリーズ

第 12 回

実施日：2023 年 4 月 7 日 (金)～10 日 (月)
目的の山域：四国 (物部川源流域) 方面
担当者：笠谷 茂
申 込：2 月末をもって終了

第 13 回予告

実施日：2023 年 11 月 19 日 (日)～24 日 (金)
目的の山域：青ヶ島 (大凸部)、八丈小島 (大平山)
担当者：笠谷 茂

歴史と文化の山旅

忍辱山円成寺から柳生街道 (滝坂の道) を歩く山旅

柳生街道は、奈良の飛火野から円成寺を経て大柳生の里へ至る 21km の道である。1971 年の NHK の大河ドラマは山岡荘八原作の『春の坂道』だった。徳川幕府の剣術指南で大名となった柳生宗矩の生涯を描いたドラマで、その頃の柳生街道は多くの人が訪れた。今は廃れて見る影もない。路線バスも本数が減った。本来の柳生街道を歩かず、国道 369 号線の道路を歩く人も多い。昔日の街道の面影が残る円成寺から滝坂の道の柳生街道から奈良へ抜ける 12km を歩く。

実施日：2023 年 4 月 15 日 (土)
集 合：JR 奈良駅西口 16 番乗り場 (9 時 11 分発石
 打行き乗車) もしくは近鉄奈良駅 4 番乗り場
 (9 時 19 分発石打行き乗車) でバスに集合。
行 程：忍辱山 (にんにくせん) 円成寺バス停—滝坂
 の道 (地獄谷) —首切り地藏—朝日観音—夕
 日観音—春日大社—飛火野—近鉄奈良駅
山行の目安：体力 2、技術 1 歩行距離 12km 約 6 時間
担当者：伊原哲士
申 込：4 月 12 日 (水) までに担当者まで

健幸登山教室

健幸登山教室参加率7割以上となるように努力して下さい。それ以下の場合は北アルプス等の計画には参加出来ません。日程、実施日等変更になることがあります。ホームページで確認をお願いします。

健幸登山教室 2023-1

実施日：2023年4月16日（日）
 目的地：堂満岳
 行程：東稜→堂満岳→金糞峠→正面谷→イン谷口
 集合：イン谷口小屋前7：30
 地形図：1/25000 図「比良山」
 内容：北アルプスに向けてポッカトレーニング
 山行の目安：体力4、技術2
 担当者：松下征文
 参加費：友の会 1000 円
 申込：山行申込書をメールで4月5日まで（水）迄

健幸登山教室 2023-2

実施日：2023年4月23日（日）
 目的地：比良げんき村
 集合：げんき村人工壁9：00
 内容：クライミング講習とトレーニング
 参加費：友の会、一般、1000 円
 担当者：松下征文
 申込：山行申込書をメールで4月21日迄

健幸登山教室 2023-3

実施日：2023年5月4日（木）～7日（日）
 目的地：残雪期の唐松岳、会員対象
 行程：陀羅佛小屋＝第一ケルン→丸山→唐松岳（小屋泊）
 同ルート下山
 集合：参加者打ち合わせの上決定
 地形図：1/25000 図「白馬町」
 内容：残雪期トレーニング
 山行の目安：体力4、技術3
 担当者：松下征文
 参加費：交通費、宿泊費
 申込：山行申込書をメールで4月10日迄

健幸登山教室 2023-4

実施日：2023年6月18日（日）
 目的地：金毘羅山
 集合：金毘羅駐車場8：30
 地形図：1/25000 図「大原」
 内容：ロッククライミングトレーニング
 山行の目安：体力3、技術2
 担当者：松下征文
 参加費：友の会 1000 円（一般不可）
 申込：山行申込書をメールで6月5日迄

写真サークル例会

写真サークル例会を新たに始めることになりました。主に写真を撮ることを目的とした例会です。カメラは一眼レフでなくても、コンパクトデジカメや携帯カメラでもOK。

大江山

「芽吹き季節を感じる」

実施日：2023年4月16日（日）8時
 集合場所：阪急京都線洛西口駅 ローターリー
 行程：京都縦貫道⇒舞鶴大江IC⇒鬼の交流博物館
 ⇒鬼嶽稻荷神社登山口⇒ブナ林へ
 時間に余裕があれば千丈ヶ嶽（832m）をピストン
 担当：野村綾子
 申込：前日までに担当者へ

◎シャクナゲ山行

実施日：2023年4月29日（土）
 集合：イン谷口駐車場 8：00
 行程：駐車場→正面谷→シャクナゲ尾根→北比良峠
 →大山口→駐車場
 地形図：1/25000 図「北小松」「比良山」
 内容：山菜天ぶらとシャクナゲ鑑賞
 山行の目安：体力2、技術2
 担当者：松下征文
 申込：4月20日（木）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。
 （参加費は人数で変わります）

北山探訪

「原点の山に新しい愉しみを求めて」、2023 年度も山を巡り愉しさを感じましょう。

ハナノ木段山△703.9m (Ⅲ佐々里) 新緑のマイナーピーク探訪

実施日：2023 年 5 月 13 日 (土)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：佐々里集落より尾根に取り付き山頂へ。往路を下山

地形図：1/25000 図「中」

山行の目安：体力：2、技術：3 {注} 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：八木 透

申込：5 月 1 日 (月) までに所定事項記入のメールで担当者まで

中山△674.5m (Ⅲ中山) ～白尾山△748.5m (Ⅲ北村)

実施日：2023 年 5 月 27 日 (土)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：周山街道⇒美山町安掛⇒荒倉集落 (駐車) →中山の南東尾根→△中山頂上→・682→・677→・597→白尾山往復→内久保集落→荒倉集落

地形図：1/25000 図「島」

山行の目安：体力：3、技術：3 {注} 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー：田中昌二郎

申込：5 月 19 日 (金) までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで

品谷山△880.7m (Ⅱ佐々里村)、 廃村八丁、卒塔婆山△806.0m (Ⅲ祖母谷)

実施日：2023 年 6 月 6 日 (火)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：集合場所⇒広河原菅原⇒ダンノ峠⇒品谷山→廃村八丁→ソトバ峠⇒卒塔婆山→オリ谷→広河原菅原⇒集合場所

地形図：1/25000 図「中」、「上弓削」

山行の目安：体力：4、技術：3 {注} 歩行距離：約 12km、累計標高差：約 900m

担当者・リーダー：笠谷 茂

申込：5 月 26 日 (金) までに所定事項記入のメールで担当者まで

◎今西錦司レリーフの集い

北山直谷にある今西錦司レリーフを訪ね、清掃・補修作業を行います。

実施日：2023 年 5 月 14 日 (日)

集合：植物園北門前 9 時

行程：植物園北門⇒中津川出合橋⇒滝谷峠分岐⇒今西錦司レリーフ→滝谷峠分岐⇒中津川出合橋⇒植物園北門

地形図：1/25000 図「周山」、「大原」

担当者：駒井治雄

申込：5 月 7 日 (日) までに TEL またはメールで担当者まで

山のスケッチ

賀茂川北大路橋又は植物園から 比叡山を描く

実施日：2023 年 5 月 15 日 (月)

集合：京都市地下鉄北大路駅北大路側出口 9 時 30 分

持ち物：スケッチ用具、歩きやすい靴

担当：山田和男

申込：5 月 6 日 (土) までに所定事項記入の上、葉書、FAX またはメールで担当者まで。

尚、5 月 14 日午後 6 時過ぎの天気予報で京都府南部の降雨確率 50 パーセントを超えるときは中止します。

テント泊登山行

比婆山 1264m

中国山地の中核、比婆道後帝釈国定公園の一角を成し、広島・鳥根の県境に標高 1,200 メートル級の山々が連なる。山頂付近は国指定天然記念物のブナ純林に覆われる。また、「比婆山伝説地」として広島県史跡に指定されている。春の比婆山の稜線をテント泊で巡ります。

実施日：2023 年 5 月 20 日 (土) ～ 21 日 (日)

集合場所・時間：参加者に連絡

行程：20 日 (土) 中国自動車道⇒東城 IC ⇒立烏帽子駐車場 (標高 1175m) テント設営
21 日 (日) 立烏帽子駐車場⇒立烏帽子山→

池ノ段→比婆山→烏帽子山→吾妻山→（往路
のピークバイパスルートを戻る）→立烏帽子
駐車場

地形図：1/25000 図「比婆山」

総標高差：約 1000m 歩行距離：約 12km

山行の目安：体力：3、技術：3

担当者・リーダー：笠谷 茂

申込：5月7日（日）までに所定事項記入のメール
で担当者まで

会務報告 支部役員会

第 442 回支部役員会

2022 年 11 月 2 日（水） 18：30～20：30（於）鴨
沂会館 出席：14 名 欠席：12 名

「報 告」

10 月に実施された秋のスケッチ山行・金勝アルプス、未知の山旅・越後、南会津方面、低山一等三角点例会・多禰寺山、健幸登山教室 8・北小松人工壁、岐阜支部 50 周年記念式典・山行、山歩会例会・古城山、巨木探訪・勝山方面、比良ダング坊整備について報告。
支部長・事務局長報告

秩父宮山岳賞受賞者、晩餐会、広島支部 25 周年記念式典、会員異動等について報告。

会計、山行部会、古道調査委員会

現状及び今後の計画について報告。

「計 画」

11 月に実施予定の山行計画について協議、承認

「そ の 他」

京都新聞出版発行本についての現状報告、ホームページ活用策について協議。

第 443 回支部役員会

2022 年 12 月 7 日（水） 18：30～19：15（於）鴨
沂会館 出席：10 名 欠席：16 名

「報 告」

11 月に実施された北山探訪・桑谷山、フカンド山、健幸登山教室 9、山歩会例会・剣尾山、巨木探訪・養父方面、広島支部 25 周年記念式典、山行について報告。

支部長・事務局長報告

全国支部連絡会議、晩餐会等について報告。

山行部会、古道調査委員会

現状および今後の計画について報告。

「計 画」

12 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

第 44 回支部役員会

2023 年 1 月 11 日（水） 18：30～20：15（於）鴨
沂会館 出席：13 名 欠席：13 名

「報 告」

12 月に実施された低山一等三角点例会・神野山、武奈ヶ岳の日、北山探訪・小倉山、健幸登山教室・金勝山、1 月に行われた初詣山行、北山探訪・井戸山について報告。

支部長・事務局長報告

支部ホームページ掲示板の活用、支部会員異動、大日山の風力発電建設計画などについて報告。

山行部会、古道調査委員会

現状および今後の計画について報告。

「計 画」

1 月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞出版センターとの打ち合わせに関する報告があった。

（中川 寛記）

＝ あ と が き ＝

今号は、記念となる「支部だより」No.150 である。No.1 は、1986 年 9 月 3 日に発行されており、わずか 2 頁の「支部だより」で、行事と山行のお知らせが掲載されている。私が入会して初めて手にした「支部だより」は 1993 年 9 月 15 日発行の No.32 で、B5 版・24 頁からなり、斎藤惇生顧問の「ナムチェバルワ報告」や大槻雅弘会員の「山城三十山を終えて」など興味深い報告が掲載されている。我々の活動報告である「支部だより」が、次の No.200 に向けて益々充実した内容となることを願っている。

— 次号 151 号 予告 —

2023年6月15日発行 原稿締切4月30日(日)

原稿送付先 編集担当 幣内規男

日本山岳会京都・滋賀支部会報 「支部だより150号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者 松 下 征 文
編集者 中 川 寛
印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
(株) 土倉事務所
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

京都府山岳総覧

内田嘉弘・竹内康之 編著

◎京都府339山案内
京都府の山々を登路を含めて網羅・解説した、最も詳しい案内書。巻頭にカラー口絵、巻末に一〜三等の全三角点も掲載。
2、420円



芦生原生林を歩きつくす

福本繁著 ◎フィールドワーク20年の調査と発見
近年シカの被害によって荒廃しつつある原生の森を次世代に引き継ぐべく20年にわたり調査したフィールドワーカーの貴重な記録。2、200円



大文字山 トレッキング手帖

5つのコースから大文字山(如意ヶ岳)とそのふもとの街をめぐるながら楽しむ、歴史都市「京都」の再発見トレッキング。
1、430円



関西発日帰り 海をながめる山歩き

草川啓三著 ◎絶景を楽しむ
若狭湾、熊野灘、瀬戸内海、紀伊水道：関西から日帰りで見られる海を見晴らす絶景スポット30コース！海をながめながら山へかけませんか。
1、760円



山登りはこんなにも面白い

窪田晋二・檀上俊雄・草川啓三・中西さとこ・横田和雄著
◎静かなる私の名山を求めて
自分の意思をもつて山に向かっている5人の登山者たち。それぞれが考える山登りの素晴らしさ、楽しさ、面白さを語る静山紀行。
1、980円



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は税込価格です

IWAI CYCLE

【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間：10：00～19：00

休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町162

営業時間：10：30～18：00

休日：毎週水曜日・木曜日

TEL：075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jact.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。
詳しくはスタッフまで!

取扱い
ブランド

ganwell

ANCHOR

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など